

# NAVIGATION

— 進路指導部便り — 第5号 2022年9月1日

発行 夢野台高等学校  
進路指導部

## 75回生受験シーズン到来

9月から大学入試の総合型選抜が始まり、10月からは学校推薦型選抜が始まります。75回生のみなさんにとっては初めての大学受験です。76・77回生についても、1年後・2年後に必ずこのときがやってきます。初めてのことでですから、受験システムについてわからないことばかりで当然です。だからこそ、面倒がらずに、最後まで読んでください。

### ●『大学入学共通テスト説明会』

9月2日(金)に75回生全員対象で「大学入学共通テスト説明会」を実施します。共通テストの本番は来年1月14日(土)、15日(日)です。出願は9月26日で、現役生は各自での出願はせず、高等学校が取りまとめて行うことになっています。志願票の校内締め切りは9月16日です。

大学入学共通テストは、入試のスタンダードと言える試験です。大学・短大を受け人はほぼ受験すると考えてください。国公立大に限らず私立大についても、共通テスト利用を受験方法に取り入れている大学がほとんどです。私立大・短大の共通テスト利用入試には、次の2種類があります。

①共通テストの結果だけで合否が決まる「共通テスト利用」

②共通テストと大学の個別試験との合計で決まる「共通テスト併用」

特に①「共通テスト利用」は1月に受験した結果を基に合否判定されるため、個別試験を受験する必要がなく、そのための準備もする必要がない上、受験料も安いというメリットがあります。また、チャンスを増やすという意味でも、受ける価値は十分にあります。

大学入学共通テストの出願は今回限りです。この時期を逃してしまえば後出しはできません。「推薦入試の結果が出てから出願」というわけにはいきません。後々困らないように先手を打っておくのは受験において大切なことです。

### ●受験手続

#### 1. 自分でやるのが基本

- ・準備：募集要項や願書等の入手、写真の用意、受験料の振込、願書等の記入、調査書作成依頼
- ・出願：エントリーやネット出願、願書や調査書等の送付
- ・受験：受験会場までの交通機関の確認、宿泊先の手配

#### 2. 調査書や推薦書の依頼は余裕をもって

- ・調査書作成依頼：「調査書作成依頼書」に記入して担任の先生に申し込む。事務手続き等があるので、1週間前には申し込むこと。
- ・推薦書作成依頼：大学指定の推薦書を担任の先生に渡して申し込む。作成には調査書以上に時間がかかるため、できるだけ早く手配すること。

#### 3. 期日は厳守

大学ごとに出願の仕方が異なるので、募集要項を熟読すること。締め切りを過ぎれば一切受け付けてもらえない。

入試関係では、毎年、勘違いや思い込みで様々なミスが起こっています。わからないまま適当にやるのではなく、担任の先生や進路指導部に確認をしましょう。

## 苦手科目の克服

前号では、夏季休業中に取り組んでほしいことの1つとして、「苦手科目の克服」を挙げました。どうでしたか？高校生にとって「苦手科目の克服」は理想ではありますが、なかなかそうはいかないのが現実です。受験生は自分のことしか見えていないので、自分だけが「苦手科目」を抱えて苦しんでいると思いがちですが、実は、みんな何らかの「苦手科目」を抱えて苦しんでいるのです。

さて、秋からは1・2年生と3年生では状況が異なります。1・2年生はまだ受験まで時間があることから、今のうちに苦手を克服しておくことが、来年・再来年の自分の助けになります。苦手科目は伸びしろが大きいことから、取り組む価値は高いと言えます。

しかし、3年生は受験が目の前に迫っています。理想はいったん横に置いて、現実を見ましょう。受験生にとって「苦手科目の克服」が最善の道かもしれませんが、克服ができなかったからと言って志望校への道が断たれるわけではありません。

そもそも、8月に頑張った結果が9月になってすぐに現れるわけではありません。勉強は蓄積です。すぐに結果が出ないからと言って、途中であきらめたりせず、継続してやっていくことが大切です。苦手科目はたとえ5点でも10点でも上がれば大きな力となります。夏季休業中に苦手科目と向き合って勉強したことはそれだけで十分価値があることなのです。

## 受験戦略

推薦入試等の受験を考えている人もいるでしょうが、公募制推薦は定員が少なく、一般入試よりも倍率が高くなる傾向にあり、多数の不合格者が出ることとなります。また、推薦入試に向けて科目を絞ってしまうことによって一般入試への準備がおろそかになる懸念もあります。公募制推薦はこのような危険をはらんでいることを十分に理解しておく必要があります。したがって、国公立の学校推薦や私立の公募制推薦の受験を考えていても、それはあくまでオプションであって、1月の共通テスト、2月の一般入試、3月の後期入試を目指して勉強し続ける努力を怠ってはいけません。現役生は最後の最後まで伸びます。だから、2月3月を目標に勉強し続け、伸びた時期に勝負することが現役生の基本戦略となります。

一般に、夏休みの結果が出始めるのは11月頃からです。現役生にとっては11月までが充実期、11月からが伸長期と心得てください。11月までに結果が出なくても、焦って受験科目を絞るのは得策ではありません。受験は総合得点での勝負ですから、科目数が多い方が苦手科目を補いやすく、反対に科目数を絞ると、その科目を得意とする受験生が集まって高レベルの争いとなり、さらに倍率も高くなって狭き門となります。受験生は不安で自分のことだけで考えがちですが、周囲の状況も判断材料に入れなければなりません。

次に、「苦手科目の克服」が非常に困難であることを前提に考えてみましょう。

例えば英語が苦手、5教科各100点配点の入試で、合格得点率が70%の場合、

国語80点 地歴90点 数学80点 理科80点 英語20点 計350点  
極端ですが、これで合格するのです。英語で足りない50点をどこでカバーするのか、入試までの限られた時間の中で何が可能なのか、を考えるのです。それが戦略です。

受験は総合得点で勝負です。「苦手科目の克服」に固執せず、得意科目をより伸ばし、高得点をコンスタントに取れるようにすることでもカバーできます。さらに、手が回っていなかった理科や地歴などを仕上げていくことでも総合得点は上がっていきます。また、苦手科目が得意科目にならなくても、10点でも上がれば十分価値があります。苦手科目については、英語のリスニングを通学途中で毎日聞いたり、単語を毎日やったり、漢文の句形を覚えたり、数学の基礎問題を徹底的にやるだけでも点数は上がっていきます。継続してやり続けることで底上げが可能です。

## 22年度入試結果より

74回生の入試では、ある分析によると、「神戸大に関して。文系では、英語の偏差値が70あれば偏差値50付近の教科があっても合格する。理系では、数学と理科2科目の偏差値がすべて55以上であれば英語の偏差値が

50付近であっても合格する。（偏差値は10月模試の成績）」ということです。やはり、まんべんなく得点できる必要はありません。

また、関学の合格率が偏差値50で40%という情報もあります。さらに国公立の中にも低倍率で入りやすかった大学がありました。現役生・浪人生ともにどんどん受験人口が減ってきており、23年度入試も同様の状況が生じる可能性は十分考えられます。総合的に考えて、模試の判定によって一喜一憂する必要はありません。受験戦略を立てて、2月3月まで焦らずじっくり準備しましょう。

## 大学説明会のお知らせ

下記の通り、武庫川女子大学と大阪教育大学の説明会を行います。希望者は申し込んでください。

### 武庫川女子大学説明会

日時：9月28日（水）15:40～ 場所：リサーチルーム  
申し込み〆切：9月14日（水）  
提出先：担任の先生 または 水井先生（進路指導部）

### 大阪教育大学説明会

日時：10月20日（木）13:00～ 場所：リサーチルーム  
申し込み〆切：10月4日（火）  
提出先：担任の先生 または 水井先生（進路指導部）

## 大学説明会申込票

( ) 武庫川女子大学説明会（9/28）に申し込みます。

( ) 大阪教育大学説明会（10/20）に申し込みます。

\*希望するものに○印を入れて提出

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )